学校法人永原学園

# さんこう児童クラブ通信

令和7年7月発行

― 第4号 ―

【三光幼稚園】
TEL:0952-31-0753
【さんこう児童クラブ携帯】
TEL:090-7430-1312

## 七夕飾り

七夕の日が近づいてきました。幼保では、地域や園児の祖父母の方をお招きして、昔から伝わる伝統行事として楽しんでいます。

児童クラブでも、今週は７月７日に向けて短冊に願い事を書いたり、折紙や和紙を使って飾りを考えたりと楽しみたいと思います。

毎年、卒園児さんが入学した小学校訪問をすると、お仕事の時間（モンテッソーリ活動）に取り組んだ、ハサミで複雑な対称切りをした飾りをつくっている子ども達に出会います。一生懸命取り組んだ時間がその子の技として指先に記憶されていることに驚き、嬉しくなります。

今週は児童クラブの子ども達もまた一段と工夫を凝らした飾りを作ってくれることを期待しています。

ご多用でしょうが、お迎えの際は子ども達の作品に目を向けて頂き、感想を頂けると幸いです。日本の伝統文化を確実に伝えていきたいと思うこの頃です。

保護者の皆様へ

① 当日の「利用なし」のメッセージは12時までにご連絡ください。また、早退された場合もよろしくお願い致します。

② 毎朝、その日の利用の有無をお子様と確認して下さい。

※送迎の関係で、一斉送信にて利用の有無をお尋ねすることがありますので、ご了承ください。

## 【カマキリのえさを探そう！】

捕まえたカマキリのエサって何だろう？調べると、「アブラムシ」を食べることが分かり、アブラムシ探しをすることに！

葉の裏や茎をくまなく探していましたが、何となくこれかな？というものしか見つかりませんでした（＞＜）

黒いのならいるよ！

この辺にいそうだなー。

途中でありの行列を見つけ、どこまで続いているのか見てみました。皆でありの足の速さに驚きです☆

毎日のように虫探しを楽しむ子どもたち。時折学校から持って帰ってくる子もいます(*^-^*)

観察したり育てたりする中で命の大切さも感じられるといいと思っています。

## 【楽しいね♪ラキュー】

レゴブロックのような小さい平面ブロックを組み合わせて色々なものを作っています。一人で黙々と構成したり、友達と力を合わせて作ったり、それぞれに完成させる喜びを感じています♪

クラブの廊下にみんなの作品が飾ってあるよ！
絶対見に来てね♪

※作品はそれぞれ1週間ごとに展示し、入れ替えていきます。

## 7月の目標

「こまめに水分補給をしよう」

室内で過ごす時でもお茶を飲むよう声掛けしていきます。補充用はありますが、量に限りがありますので、ご家庭で水筒にいっぱい入れていただきますよう、ご協力よろしくお願い致します。

※6月の目標「片付け・ロッカーの整理整頓」もまだまだ継続して頑張ります！

**７月の学童児童数**

| | 在籍者数 | 休所者数 | 利用者数 | そのうち新規入所者数 | 6月末退所者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1年生 | 13 | 1 | 12 | 0 | 0 |
| 2年生 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 |
| 3年生 | 14 | 0 | 14 | 1 | 0 |
| **計** | **31** | **1** | **30** | **1** | **0** |

# 寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学部の窓から

「子どもの感性や気持ち」

西九州大学子ども学部心理カウンセリング学科　教授　安藤満代

4 月其日、幼稚園に通うＡちゃんを預かって、一緒に遊ぶという経験をしました。やや活発で、発達障がい傾向を若干持っているかもしれない子どもでした。歩いていると、小さなこいのぼりがある家の庭で風に揺られていました。A ちゃんは、それを見て、「あのこいのぼり小さいね。今から大きくなって空で泳ぐかな？」と言われ、「はぁ？」と私は思いましたが、子どもの感性って豊かだなと思いました。その後、コンビニでお弁当を買うとき、A ちゃんは嬉しくて、自分で歌って、踊っていました。店員さんも、最初は驚いていましたが、あとからニッコリしました。なかなか普通は、コンビニで踊る光景は見ないので、A ちゃんは出かける嬉しさを体で表現しているように見えました。それから地下鉄に乗って広い公園に到着しました。そこには大きな池があり、ボートがありました。A ちゃんは「乗りたい、乗りたい」と言っていましたが、母親の了解もなく、乗せるのもと考え、「お母さんに聞いて、今度乗ろうよ」と言って、遊具のところに行き、元気よく遊んでいました。

砂場で遊んでいる時、白い小さな貝殻を見つけ、「貝殻を見つけたよ−」と見せてくれました。私ならまったくそのような小さな貝殻を見ることはなかったけれど、A ちゃんには、それが目を引くものとして映るのだろうと感性の違いを感じました。そして、帰る準備の時間になり、「A ちゃん、帰ろう」というと「帰らない」と言って、遊具から降りてきませんでした。しばらく押し問答して、やっと降りてきました。そこで再び、「ボートに乗りたい」と言い始め、公園内の道路に寝そべって、大声で泣きました。その日は、多くの親子連れやお客さんがいて、私は、若干恥ずかしい気もしていました。母親が待っている時間に近づくので、「A ちゃん、今度ボートに乗ろう。そのまま寝て泣いていたら、置いていくよ」という素振りをし、置いて歩いてみましが、A ちゃんは後を追ってこようとせず、じっと寝て、空を見ていました。そこで私は仕方なく、あまり推奨できないかもしれませんが、「かき氷買ってたべようか」というと、少し気を取り直して、帰ることに同意してくれました。A ちゃんとこれからも時々会うかもしれないので、子どもの感性や気持ちを改めて理解する機会になりそうでした。